

八甲田山の火山活動解説資料（平成28年6月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・噴気など表面現象の状況（図2～8）

2日から3日にかけて実施した現地調査では、前回（2015年11月10日～11日）と比較して、地獄沼周辺の噴気や地熱域、地中温度の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図9、図11）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

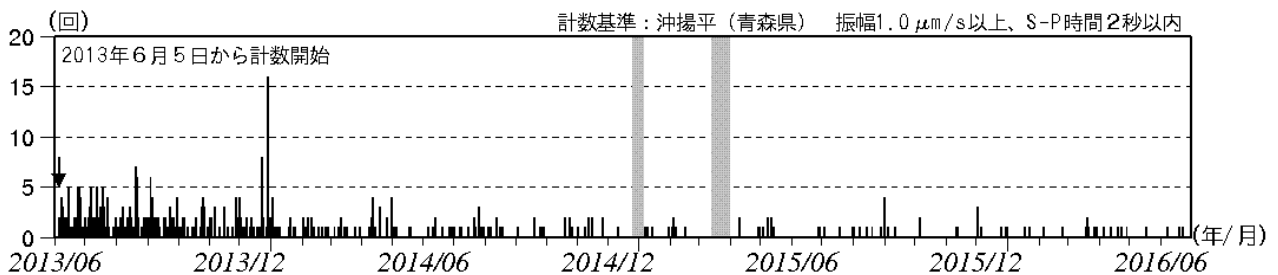


図1 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2016年6月）

・灰色部分は欠測を表しています。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成28年7月分）は平成28年8月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、弘前大学、東北大学、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。



図2 八甲田山 八甲田山周辺の地形図

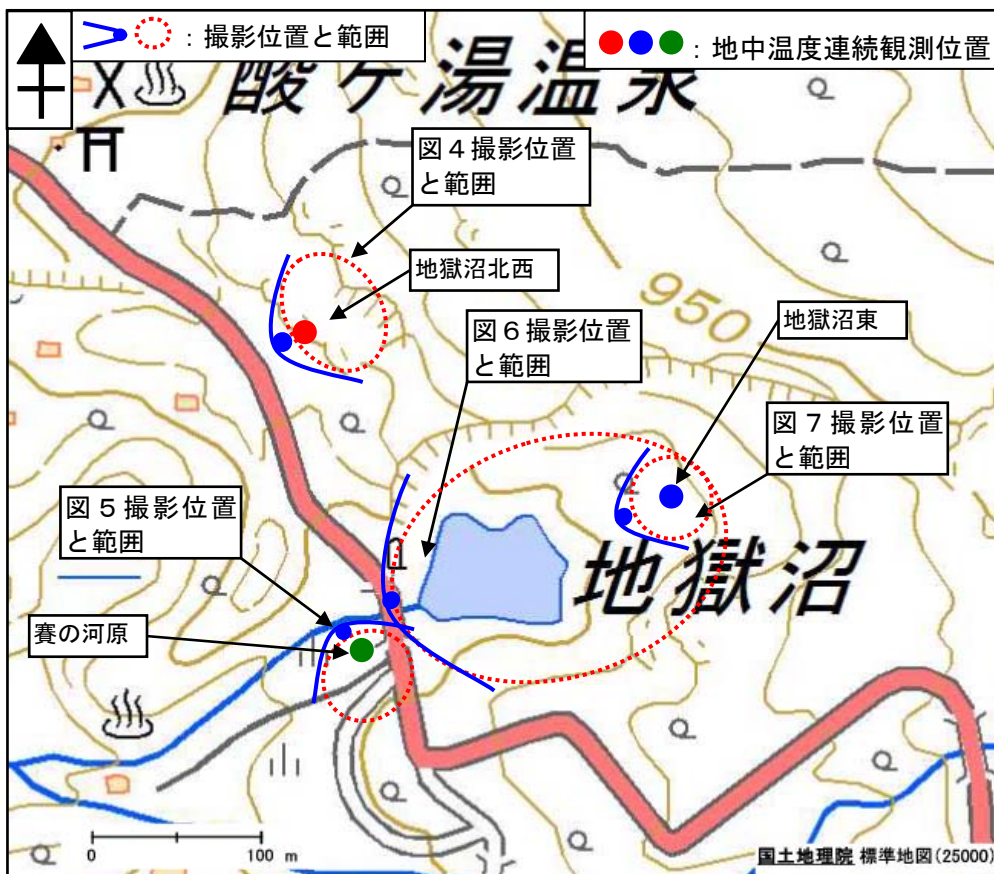


図3 八甲田山 地獄沼及び周辺の写真と地表面温度分布¹⁾ 撮影位置及び地中温度連続観測実施位置

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

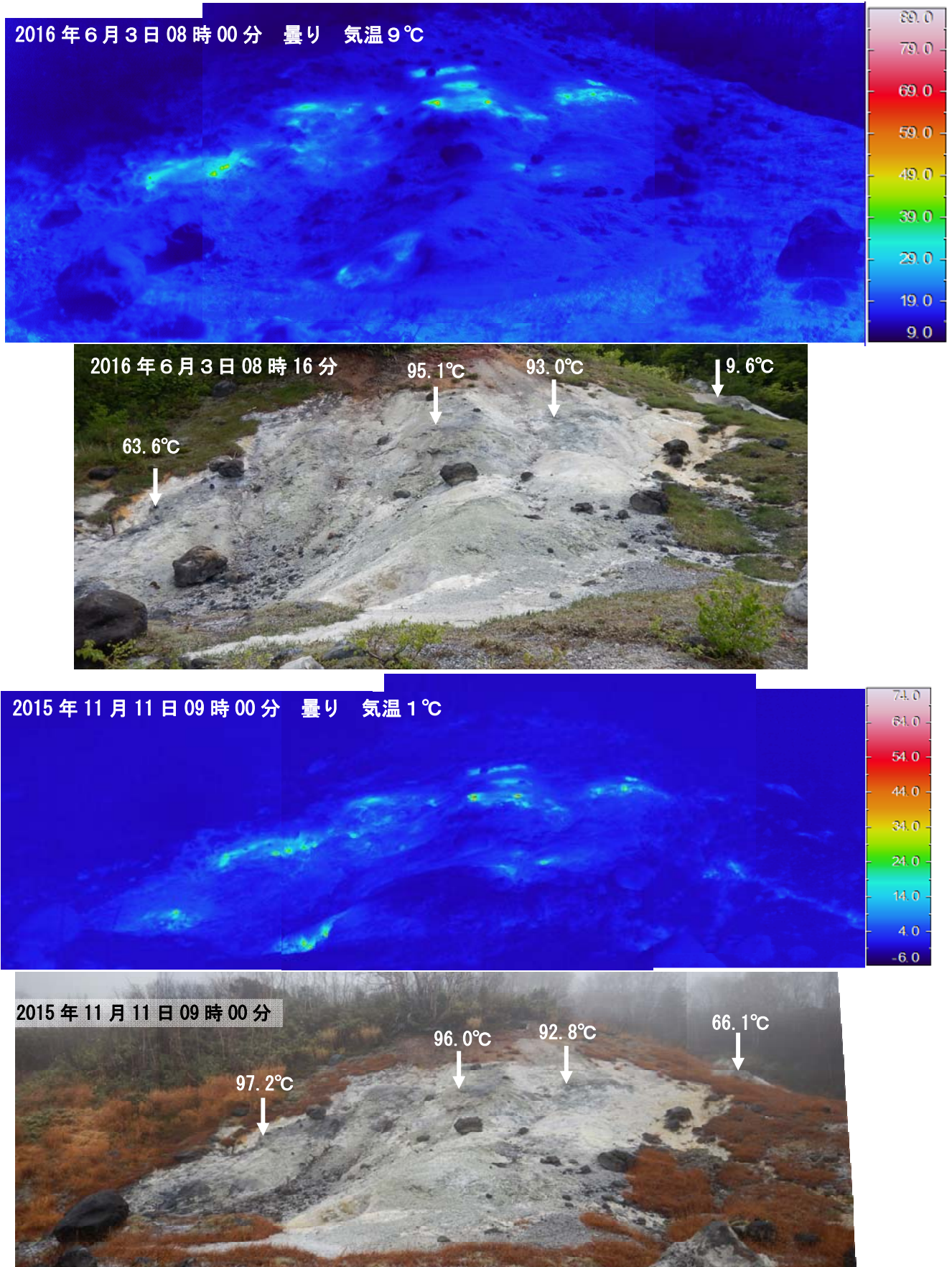


図4 八甲田山 南西方向から撮影した地獄沼の北西の状況と地表面温度分布

- ・前回（2015年11月11日）と比較して、地熱域の分布に特段の変化は認められませんでした。
 - ・矢印↓はサーミスタ温度計²⁾により地中温度を測定した場所を示します。
- 2) サーミスタ温度計は、半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器です。

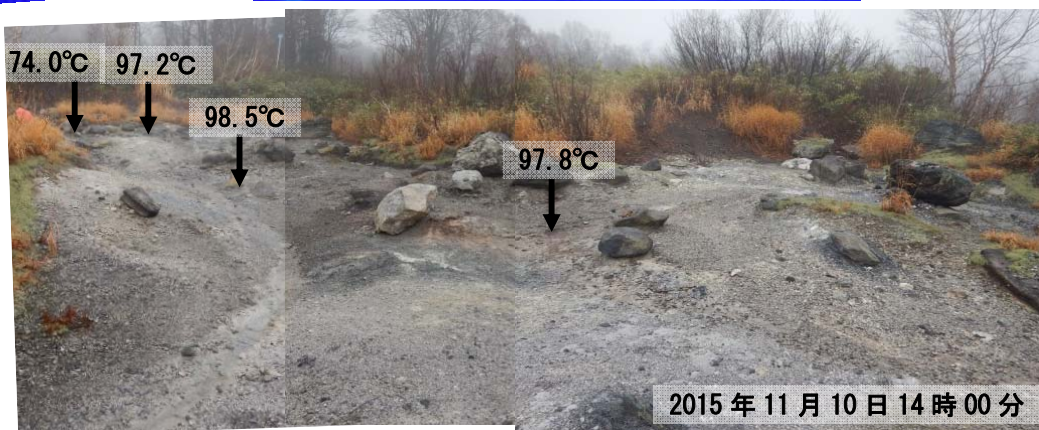
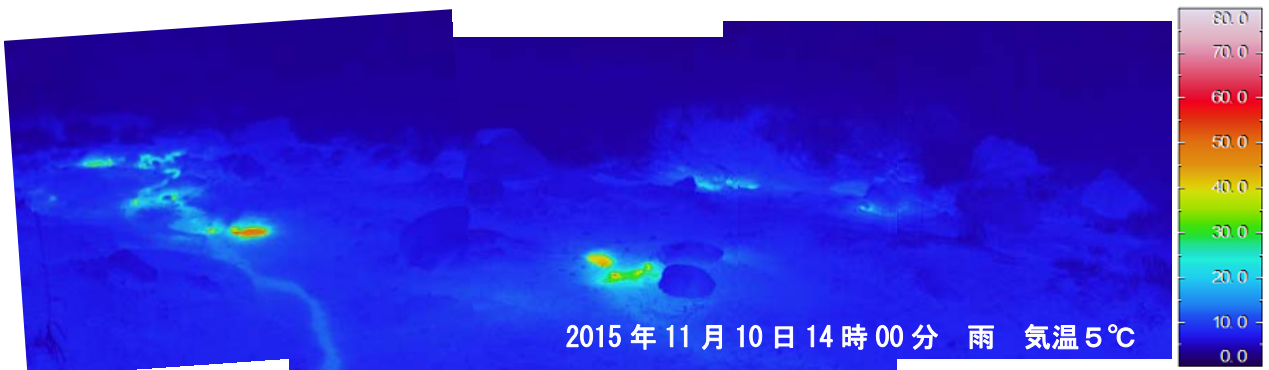
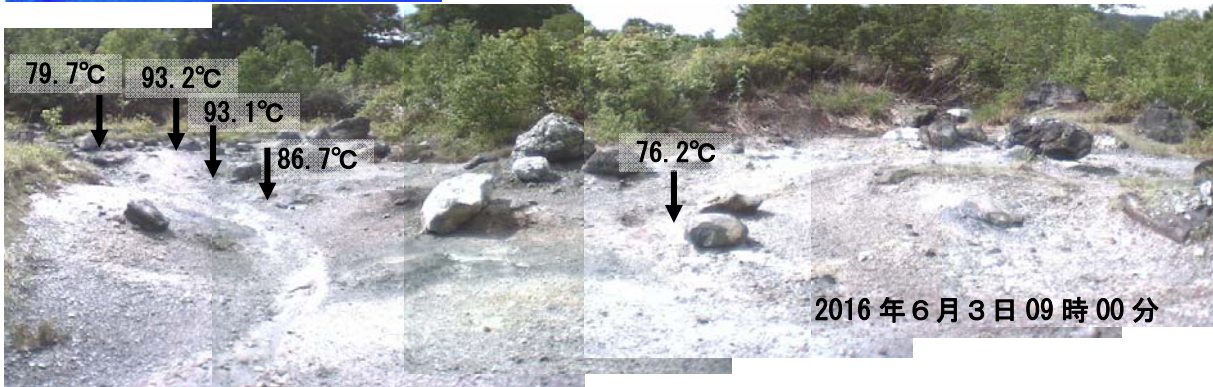
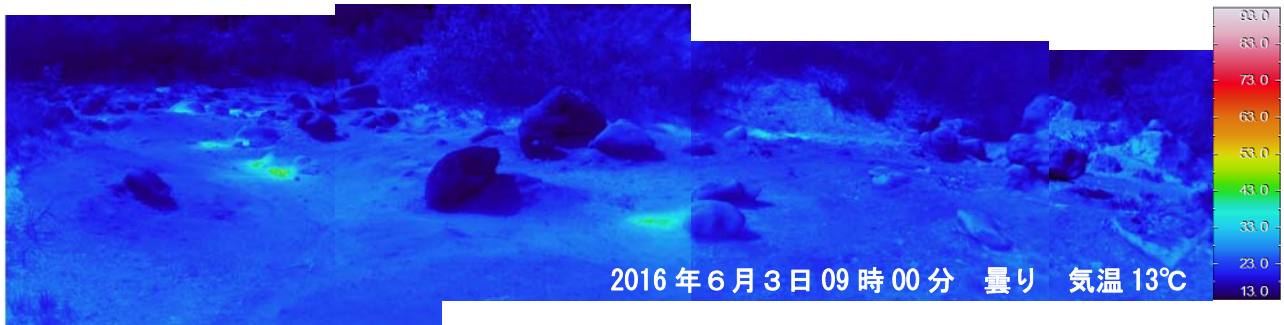


図5 八甲田山 北方向から撮影した賽の河原の状況と地表面温度分布

- ・ 前回（2015年11月10日）と比較して、地熱域の分布に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 矢印↓はサーミスタ温度計により地中温度を測定した場所を示します。



図6 八甲田山 西方向から撮影した地獄沼の状況と地表面温度分布

- ・前回（2015年11月11日）と比較して、地熱域（実線赤丸内）の温度分布に特段の変化は認められませんでした。

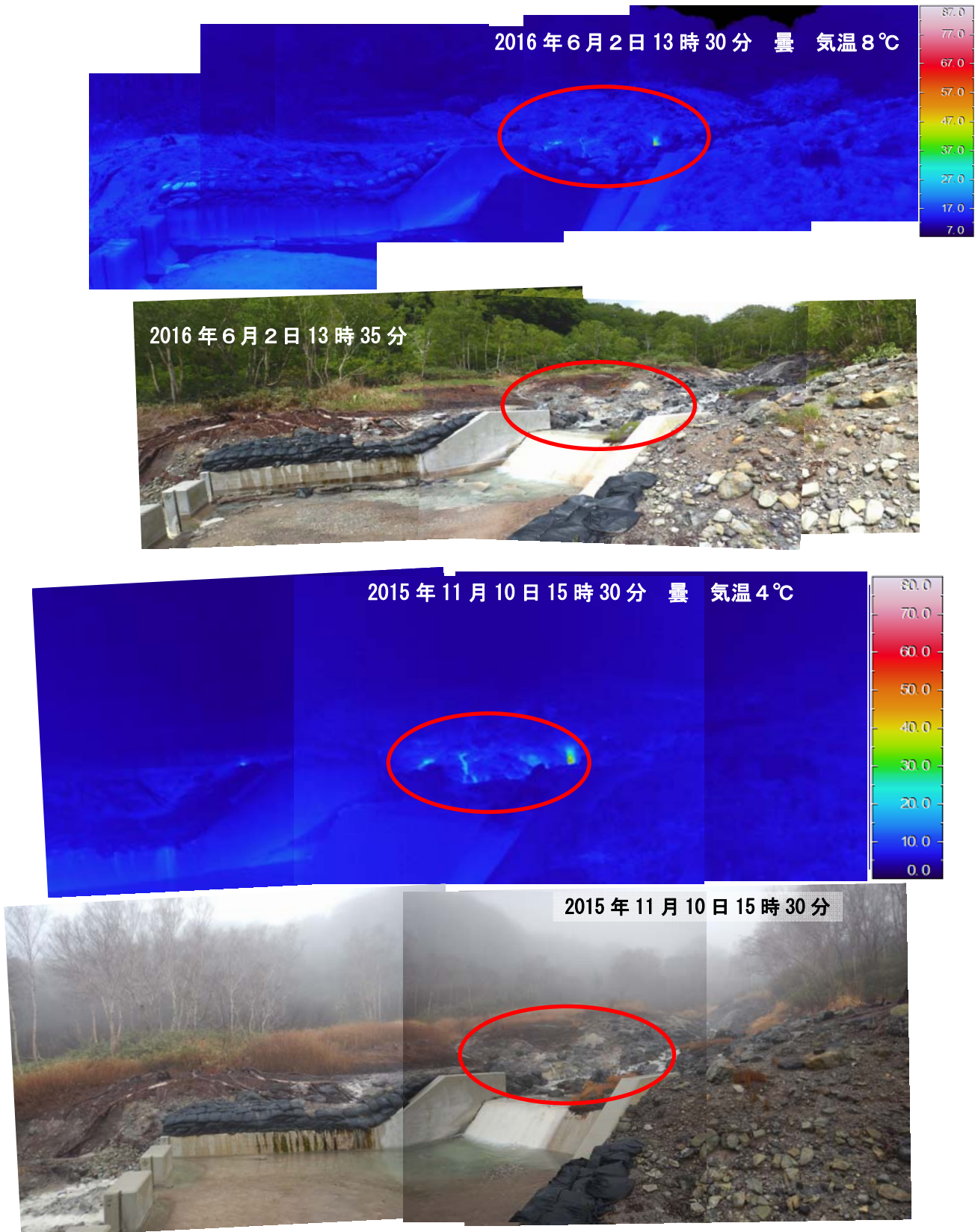


図7 八甲田山 南西方向から撮影した地獄沼東の状況と地表面温度分布

- ・以前から確認されていた地熱域（実線赤丸内）の地熱、噴気、湯・泥の噴出が、今回も認められました。



図 8 八甲田山 噴気地熱域の地中温度連続グラフ（2013 年 11 月 1 日～2016 年 6 月 3 日）

- ・ 2013 年 11 月 21 日から観測を開始しました。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 火山活動に起因すると思われる変化は認められませんでした。

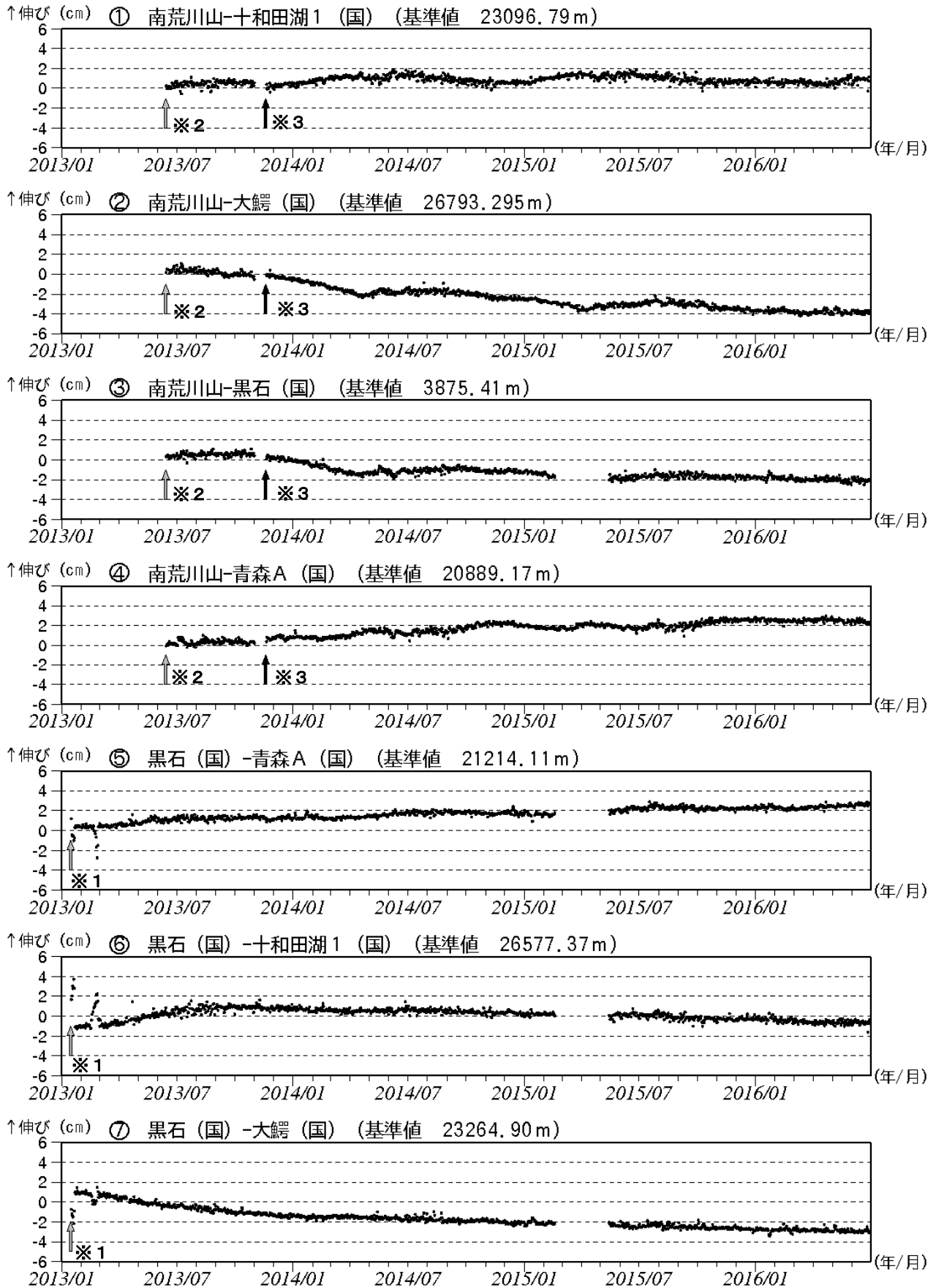


図9-1 八甲田山 GNSS³⁾ 基線長変化図 (2013年1月～2016年6月)

3) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

- ・①～⑦は図11のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

※1 2013年1月16日より解析を開始しています。

※2、3 南荒川山(臨時観測点)のデータは、2013年6月15日から11月1日まで現地収録していましたが、機器の移設・更新を行い11月19日からは常時テレメータ観測しています。図は基準値を補正して接続しています。

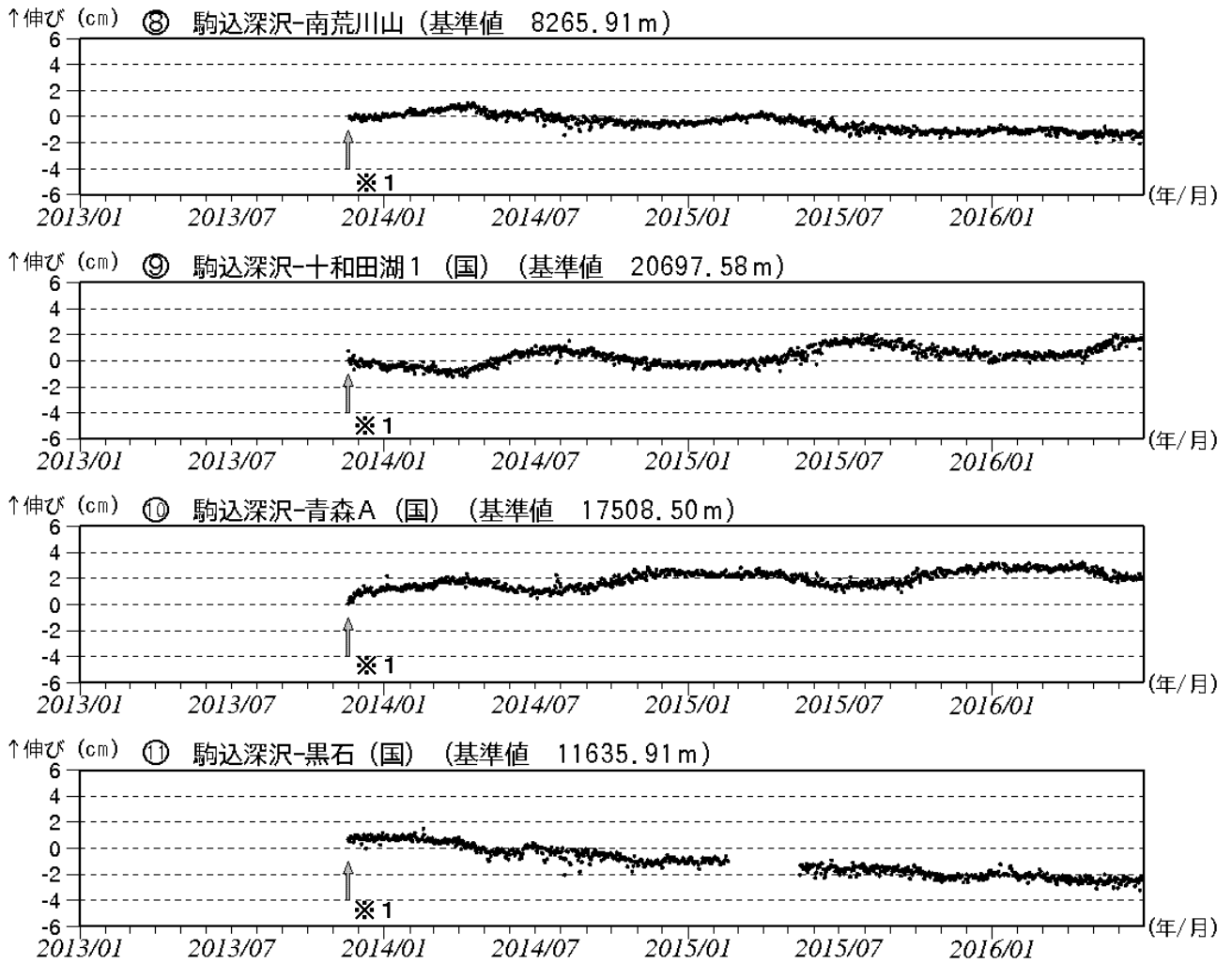


図9-2 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013年1月~2016年6月)

- ・⑧~⑪は図11のGNSS基線⑧~⑪に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

※1 駒込深沢観測点は2013年11月18日から解析を開始しました。

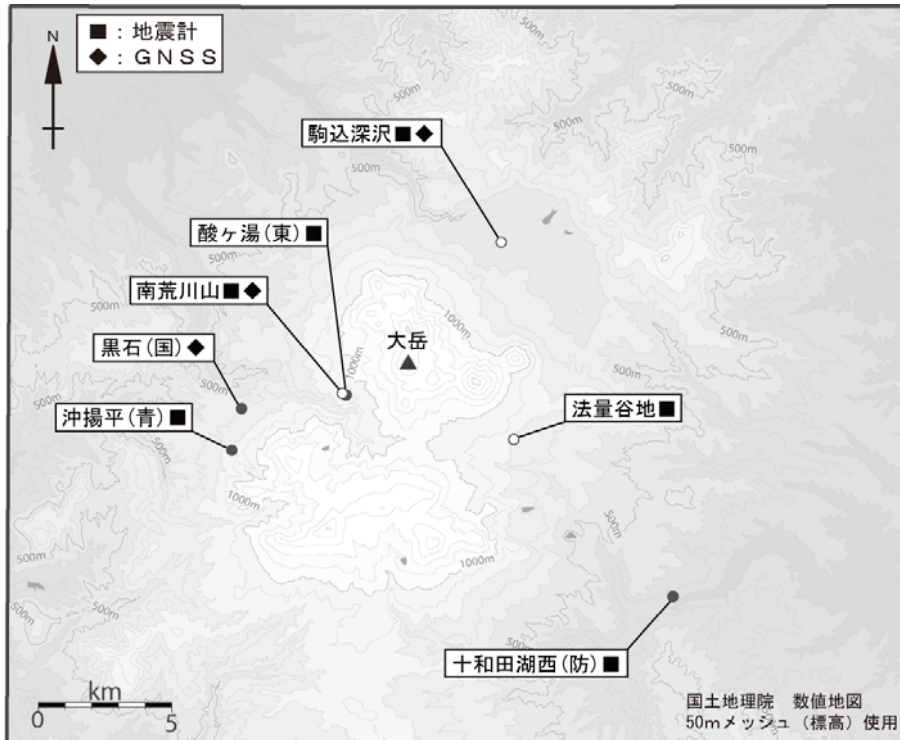


図 10 八甲田山 観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （東）：東北大学 （国）：国土地理院 （青）：青森県
 （防）：防災科学技術研究所

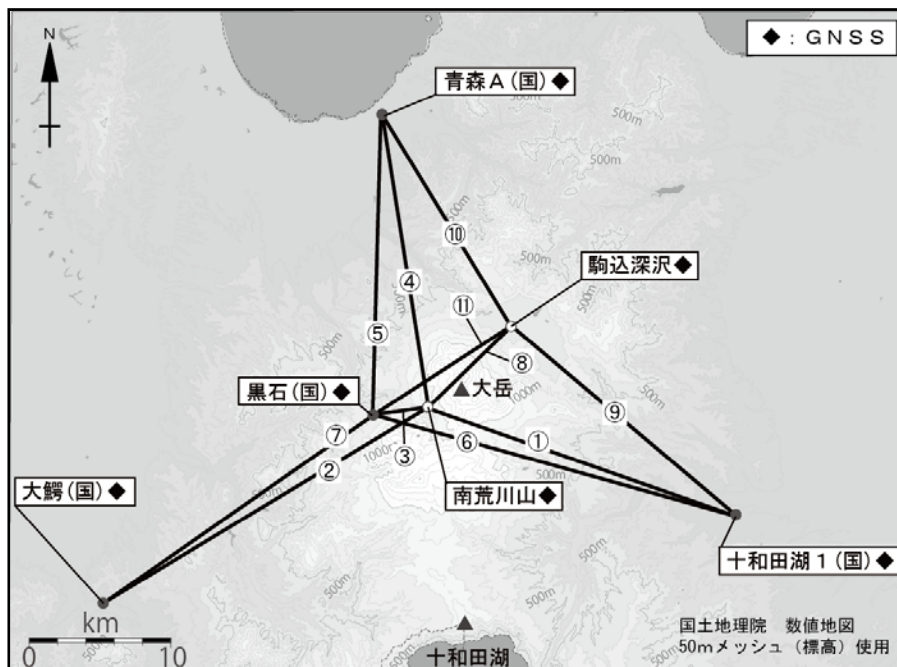


図 11 八甲田山 GNSS 観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院